



# 街角歴史散策のじほり

【1】本日のスケジュール(午前)

【2】散策ルートマップ(午前)

【3】本日のスケジュール(午後)

【4】散策ルートマップ(午後)

・散策ルート周辺のまめ知識

【5】神戸という地名と市章

【6】大阪という地名の由来(参考)

【7】神戸駅と東海道線

【8】神戸駅舎の歴史(参考)

【9】松尾稻荷神社のビリケン象

【10】神戸駅ちかくのミステリースポット(参考)

【11】高田屋嘉兵衛

【12】兵庫の原点 [大輪田泊(おおわだのとまり)から兵庫の津へ]

【13】福原京と兵庫

【14】清盛邸跡(雪見御所)と経ヶ島

【15】行基による大輪田泊護岸工事と神戸周辺の足跡

【16】西国街道を歩く

【17】平清盛の墓域はどこか

【18】真光寺と一遍上人

【19】ゴローニン事件(参考)

【20】勝海舟と龍馬の足跡

【21】西国街道今・昔(江戸元禄)

【22】西国街道今・昔(明治)

【23】オプショナル(ハーバー)コース

【24】JR神戸駅/市営地下鉄ハーバーランド駅・構内図

折り曲げ線

## 【1】本日のスケジュール(午前の部)

■ 10:30～12:00 ※約1.5時間弱 (ウォーク:2.7km)

★★早くご到着の方でご休憩の場合、改札口出て、前方斜め左手にスターバックスもあります。(柱で見えにくいのでご注意を!)★★

▼ 10:30・①神戸駅(中央改札)・集合/会長挨拶他・8分

▼ 10:38・スタート

↓ (12分)

▼ 10:50・②松尾稻荷神社・10分

(日本最古のビリケンさん/明治時代)

↓ (5分)

▼ 11:05・③高田屋嘉兵衛本店の地・5分

(廻船問屋で大成功を収めた商人、北前船/江戸時代後期)

↓ (5分)

▼ 11:15・④浮きドック・3分

(兵庫港、船の修繕、運が良ければ川重の潜水艦が垣間見える、/高度経済成長期)

↓ (9分)※旧加藤海運ビル前通過

▼ 11:27・⑤来迎寺・8分

(清盛が経ヶ島を築造する際に人柱となった松王丸の墓/平安時代)

↓ (1分)

▼ 11:36・⑥古代大輪田泊の石椋・3分

(行基による護岸施設の石/奈良時代)

↓ (2分)

▼ 11:41・⑦札場の辻跡・5分

(高札場、西国街道のL字地点/江戸時代)

↓ (2分)

▼ 11:48・⑧旧岡方俱楽部前・5分

(兵庫津商人の集会所、登録有形文化財/昭和2年)

↓ (7分)

■ 12:00・⑨地下鉄中央市場前・ゴール

■ 12:00～13:00・昼食・中央市場周辺



2025年11月15日

新居浜高専 関西燧会

## 【2】散策ルートマップ(午前の部)



### 【 中央市場ランチ・お食事処 】

- ◇市場食堂(海鮮丼専門店)、◇丸高食堂(定食屋)、
- ◇洋食ひらおか(日本式洋食)、◇ニューラーメンショップオリジン
- ◇まるも寿し、 ◇丸石食堂(蕎麦)
- ◇Café 由佳 はまぐち

## 【3】本日のスケジュール(午後の部)

■13:00～14:55

※約2時間(ウォーク:1.8km)

▼13:00・⑨中央市場前駅出口1・スタート

↓(5分)

▼13:05・⑩兵庫城跡・5分

(兵庫城に使われていた石垣が展示されている/戦国時代)

↓(10分)

▼13:20・⑪能福寺・15分

(最澄が最初に建てた寺、清盛がここで剃髪を行った、  
兵庫大仏/明治時代→戦時中に金属供出/平成3年に再建)

↓(10分)

▼13:45・⑫真光寺・10分

(時宗の開祖一遍上人が亡くなった場所で墓がある/鎌倉時代)

↓(5分)

▼14:00・⑬清盛塚・5分

(1286年(弘安9年)に建立、清盛の供養塔/鎌倉時代)

↓※大輪田橋通過10分

▼14:15・⑭兵庫津ミュージアム(初代県庁館)・30分

(コーヒーブレイク)

▼14:45・⑮兵庫津ミュージアム(ひょうごはじまり館)・30分

(自由見学)

↓(1分)

▼14:50・⑨中央市場前駅

↓(5分)※市営地下鉄:

■14:55・⑯ハーバーランド駅:解散(副会長・挨拶)

⇒⇒(エスカレータで)JR神戸駅へ

⇒⇒《一部希望者→懇親会へ》

⇒⇒《一部希望者(各自)→オプショナルコースへ》

折り曲げ線

## 【4】散策ルートマップ(午後の部)



## 【5】神戸という地名と市章

►大坂という地名が中世(戦国時代)から始まったのに対して、「神戸」はいわば古代の法律用語で、律令制の下で神社の経済を支えた農家のことである。

►大化の改新以後の律令国家では、それまで各地の豪族が支配してきた全国の土地や人を大和の朝廷に直属させ(公地公民)、農地を六歳から死亡時まで国民に支給し(班田収授)、国民には均等の税(租・庸・調等)を負担させた。

►ただ由緒ある神社を維持するためには、税を郡ごとに設けられた倉庫(大蔵)に納めず、税を神社に納めるように指定された農家があった。このような農家は、神のための家族(戸)つまり「神戸」と呼ばれた。

►集落全戸が神戸だと、その村は「神戸の里(郷)」と呼ばれて、神戸は地名になった。伊賀神戸等各地の大きな神社の近くに神戸という地名があるのは、このような歴史によるものである。

►大同元年(806)に生田神社に四十四戸の神戸が与えられ、その集落が(生田の)神戸の郷と呼ばれたようだ。十世紀前半の[和名抄]に摂津国菟原郡神戸郷の記録があるから、平安前期には地名として定着していたことがわかる。江戸時代の神戸村は今の元町本通の一、二丁目一帯で、古代の神戸郷はその少し山手にあったと考えられている。

►ムメ(梅)・ママ(馬)・コムヤ(紺屋)と同様に唇を閉ざすべきMの音を、日本では開唇してウと発音したために、カムベはカウベ更にコーベと発音されるようになった。



►六甲山地南方にある神戸旧市街の平地は、中央部で南に突き出す和田岬があって、扇の形をしている。そのため神戸港は扇港と呼ばれることがある。明治四十年(1907)以来、今も使われている神戸の市章は、扇港の扇二つで旧カナ遣いのカウベの「カ」を丸めて図案化した意匠なのである。

## 【6】大阪という地名の由来(参考)

►大阪という地名は戦国時代から記録の中に現れる。天王寺から北に伸びる上町台地の北端に低地から登る坂があり、これを小坂・尾坂と呼んでいた。

►1500年ごろ台地の上に石山本願寺が造られ寺内町が形成されたころ、坂の名は一帯の地名に転用され、「小」より好い字に代えて大坂と記されるようになったとされている。

►織田信長が本願寺を滅ぼした後に豊臣秀吉が城を築き、城も城下町も「大坂」と呼ばれた。江戸時代には大阪と誤記されることがあったが、明治初年に「大阪」が正式決定された。

►商人の縁起起坦ぎで、土が付くのは好くないと考えられたのだろう。大阪では近年でも近鉄や私鉄の鉄の字を「鉄」と書いてきた。「大阪商人は金を失う(鉄)なんて書けまへん、鉄道は金の矢(鉄)だす」という文化なのである。

## 【7】神戸駅と東海道線

►JR神戸駅のプラットフォームに立って、三ノ宮方面から入ってくる電車の正面を眺めると、あなたはどの方向を向いているか。こう訊ねると、東と答える人が多い。正解は北で、神戸駅のプラットフォームは南北に伸びている。兵庫駅に向かって出ていく電車をま後ろから見送ると、ほぼ真南を向いていることになる。

►これは、明治七年(1874)に大阪・神戸間に鉄道がついた時、天井川になった(旧)湊川の土手が神戸駅予定地の西方に南北に横たわっていたため、土手の東方で南北方向に曲げて停車場を建設しなければならなかつたからなのだろう。

►神戸線や宝塚線等というJRの俗称のために、東京駅からこの神戸駅までが正式には「東海道本線」であることが忘れられ、プラットフォームから見て一番ハーバーランド側の線路脇にある「東京起点589km340m東海道本線、神戸起点0km山陽本線」という東海道本線と山陽本線の境界を示す白い標柱にも注目する人は少ない。



►明治政府は明治五年の新橋(東京)横浜間鉄道に続いて、明治七年に大阪と神戸を結ぶわが国第二の鉄道を完成した。この時、両駅の間では三ノ宮・住吉・西ノ宮・神崎(今の尼崎)の各駅が開業した。

►明治十年に大阪・京都間に完成した後、東京横浜間鉄道と大阪神戸間鉄道とは互に延長されて明治二十二年に連結され、東海道本線が完成した。そして明治二十一年からは今の山陽本線の前身、私鉄山陽鉄道が下関に向かって伸びていく。

►「汽笛一声 新橋を」で始まる鉄道唱歌は、六十二番で「神戸は五港の一つにてあつまる汽船のかずかずは海の西より東より瀬戸内がよいも交じりたり」、六十三番は「機にはながめ晴れわたる和田のみさきを控えつつ山には絶えず布引の滝見に人のぼりゆく」、六十四番は「七度うまれて君が代をまもるといいし楠公のいしづみ高き湊川ながれて世々の人ぞ知る」、六十五番で東海道全線を振り返った後、六十六番では「明けなば更に乗りかえて山陽道を進まし天気はあすも望あり柳にかかる月の影」と当時の私鉄山陽鉄道への乗り換えを勧めて、東海道全線を歌い終えている。



## 【8】神戸駅舎の歴史(参考)

►JR神戸駅舎は1930年(昭和5年)に高架化に合わせて建設された、重厚な洋風建築です。

►設計は大阪鉄道管理局の柴田四郎氏が担当し、中央にステンドグラスと大時計を配した威厳あるレトロモダンな外観が特徴です。

►駅舎は茶褐色のスクランチタイル貼りで、中央コンコース部分の全高を高く、両翼を低くした左右対称のデザインとなっています。内部にはアールデコ調の手すりや植物モチーフの装飾が施され、当時の近代建築の美意識が感じられます。

►この駅舎は、東海道本線の終点・山陽本線の起点として、神戸の玄関口としての役割を担いました。昭和初期の都市発展と鉄道の近代化を象徴する建築であり、現在も近代化産業遺産に認定されています。

►かつては皇室専用の貴賓室も設けられ、神戸の中心駅としての格式を示していました。

## 【9】松尾稻荷神社のビリケン象

►旧稻荷市場の名称の元となった松尾稻荷は古くは旧湊川の土手にあったが、湊川の付け替え後の大正三年(1914)ここに移転。新開地の発展とともに参詣者が増え、マツオの名が中国の民間信仰の神マゾの名に通じることから在神の華僑の信仰を集め、また花街の女性も多く参った。



►境内は不思議な雰囲気の空間で、本殿奥に古いビリケン像が祀られている。

►アメリカで起こった福の神ブームは神戸に伝わり、大正時代に元町の洋食店主がこれを作らせた。光背を小判形にし打ち出の小槌を持つ和洋折衷の像だが、見物客が多く過ぎて営業に支障を来し、当社に納められたという。

►境内の高田屋嘉兵衛奉納の灯籠や平経後の五輪塔が知られているが、拝殿内にもう一つのビリケンさんが祀られている。

►この像の胎内の小石に「昭和五年…ビリケン菩薩」と書かれていて、興味深い。明治・大正期の阪神間では欧米からの外来語はデパート、ピスケット等濁音と半濁音が入れ換わって受け入れられた。この神も神戸では一般にビリケンさんと呼ばれていた。その証拠が見つかったわけであり、更に、戦後再建された大阪のビリケンさんよりも古いビリケン像が、二体も神戸駅ちかくに健在なのである。

## 【10】神戸駅ちかくのミステリースポット(参考)

►JR神戸駅に近い湊川神社の境内南東隅に水戸光圀像がある。



►光圀は1692年に家臣の佐々助三郎宗淳を使わし、自筆の「鳴呼忠臣楠之墓」の銘を刻ませて、湊川の戦いで歿した楠木正成の墓碑を建立した。

►この墓を中心に明治初年に湊川神社が創建されたため、その功績を偲んで昭和三十年(1955)に光圀の像が建てられた。

►神戸駅の浜側では、ハーバーランドの神戸情報文化ビル脇にエルビス・プレスリーの像がある。没後十年を記念して1987年に東京原宿の音楽専門店前にファンが建てた像が、同店閉鎖で2009年にジャズ発祥の神戸に移転してきた。



►プレスリー像から西へ徒歩五分、湊小学校の前を通り過ぎるとすぐ道端に、ねじれで解けないメビウスの輪を形どった横溝正史誕生地記念碑がある。「八つ墓村」や「犬神家の一族」を書いた横溝は、この近くで生まれ、神戸二中・大阪薬専を出て家業の薬局を継いだ後、昭和初年に江戸川乱歩に誘われて上京し探偵小説の作家となった。



►(横溝氏の)碑の後ろの道から一つ山側の細道を数分南下して川崎本通を越えると、旧稻荷市場跡の少し南、建物脇に小さな標柱があって、サカエ薬局の跡だという。ダイエーの創業者・中内功が起こした昭和後期の流通革命の原点の地。



## 【11】高田屋嘉兵衛

►淡路島五色町(現洲本市)生まれの高田屋嘉兵衛が兵庫に来て船乗りになったのは、松平定信による寛政の改革の時代であった。

►三年で船長に、七年で持ち舟辰悦丸(しんえつ)の船長になった嘉兵衛は、兵庫津と日本海沿岸を、更には北海道までを取り引きの場として北前船での事業を拡大し、特権商人のいる松前城下を避けて箱館の港を開き、根室の町の基礎も築いた。



►彼は品質や量目の管理を厳密にしたため、各地で信用を得た。また、部下への給料を公平にし、アイヌの人たちとも公正な取り引きを進めたという。

►その頃、シベリアを横断したロシアの勢力がカムチャツカ半島から北太平洋を南下して、日本近海に出現し始めた。江戸幕府は北海道周辺を調査、嘉兵衛はこれを助けた。北方領土問題で日本の南千島領有の主張の一環となっている「大日本恵登呂府」の標識を立てた近藤重蔵を、エトロフ島に連んだのも嘉兵衛である。

►1811年にロシア海軍のゴローニン艦長らが測量のために国後島に上陸したので、役人が彼らを捕らえて拘留する事件が起こった。ロシアは報復として、近海で操業中の嘉兵衛らを捕らえて人質としてカムチャツカ半島に連行した。

►ロシアと幕府は交渉の手段を持たず解決のめどは立たなかった。これがゴローニン事件である。四十三歳の嘉兵衛は拘留されたペトロバプロフスクでロシア語を学びロシア側を説得して自分を北海道に送還させ、幕府を説得してゴローニンを帰国させ、紛争を解決した。司馬遼太郎は、この嘉兵衛の生涯を歴史小説「菜の花の沖」に描きだしたのである。また、函館や根室では今でも嘉兵衛を町の創建者とたたえ、彼の銅像が立てられている。

►嘉兵衛は兵庫の西出町(にじでまち)に本店をおいた。JR神戸駅の南西、国道二号の浜側に今も西出町の名が続いている。国道の山側の西出鎮守稻荷を訪ねると、鳥居脇の一対の石灯籠には高田屋と刻まれている。彼が奉納したものなのである。

►また、その南方の竹尾稻荷神社には高田屋嘉兵衛顕彰碑が立っている。かつては七宮神社にも嘉兵衛が奉納した絵馬や辰悦丸の模型があったというが、1945年の空襲で社殿とともに焼失してしまった。



西出稻荷神社の高田屋嘉兵衛奉納灯籠



高田屋本店碑  
(西出町)



竹尾稻荷の高田屋嘉兵衛顕彰碑

## 【12】兵庫の原点 [大輪田泊(おおわだのとまり)から兵庫の津へ]。

### 【12-1】浪速の津の問題

►台風時の太平洋の波の高さや冬の日本海の風波と比べると、太古から瀬戸内海がいかに安全な水路だったか想像がつく。その内海の東の詰まりが大阪湾だ。

►日本では西からのジェット気流が卓越するから、内海の東詰まりの大阪湾では風が起きて波が荒い。西からの風と逆向きに、淀川・寝屋川・大和川等が東から流れ込むため、大阪湾東岸は波がざわめき、波が高い、波が速いことで「浪速」と呼ばれてきた。このナミハヤがナミハからナニハと訛り、浪花・浪華等の字が当てられた。今の大阪地域の古名で、古代の浪速津は瀬戸内海東端のターミナル・ポートであった。

►浪速津の一つ西の船泊まりとして、神話的時代には武庫の水門(阪神西宮駅近く)が[古事記]等に記され、七世紀には敏馬(みぬめ)の浦(灘区海岸)が万葉の古歌に読まれ、奈良時代には「大輪田泊(兵庫区)」と定まった。

►造船・航海技術の発達で、大阪からの一回の航海の距離が、古墳時代のころには西宮まで、七世紀には灘まで、八世紀には兵庫まで伸びたと推測できる。天平十九年(747)の法隆寺資材帳に伊米野(夢野)の東に「弥奈刀(湊)川」の記述があるから川口が大輪田の船泊になっていた川なので、湊川と呼んだのだろう。

►大型港湾や最終目的港を「津」と呼びは、浪速の津と大輪田泊との古代の港の

►しかし、平安時代になると浪速津の問題点が露呈する。平野の西の浅海に大川が運ぶ土砂が堆積し、航行が危険になると、浪速では竹や棒を紐で結わえた航路標識を浅瀬に立て、船の座礁を防がねばならなくなつた。

►この航路標識が浮標(みおつくし)で、それを図案化したものが今の大阪市の市章なのである。



大阪市市章

### 【12-2】大輪田の津の台頭

►平安遷都以降は都から山陽道で直行できる大輪田泊のほうが、大川を渡らねばならない浪速津より便利になった。平安末期、平清盛が築島(経が島)を築いて防波堤代わりにして安全性が増すと、瀬戸内海航路東端では大輪田泊の優位は決定的になった。

►鎌倉時代からは港の周囲に町も形成され始め、以後江戸時代まで町と港は「兵庫津」と呼ばれるようになった。

►今の元町本通西部から長田の大道へと直線で通じていた山陽道も、兵庫津に寄るために元町本通西部からV字状に南に分かれて、港町に入った。

►南北朝時代の楠木正成の湊川の戦い、室町時代には明國との勘合貿易でも兵庫津は大きな役割を果たした。

## 【13】福原京と兵庫

### 【13-1】未完の福原京

►平安末期の平家の福原荘は湊川等に潤された、今のJR神戸駅一帯の荘園だった。

►今の有馬道周辺に平家一門の山荘があつた1180年六月に清盛たちは京都からここに来住し、安徳天皇は平頼盛の山荘に、高倉上皇は清盛の雪見御所に入った。

►まだ都市つまり京ではなく、いわば福原宮である。この地は谷と丘の地形で街の建設はできず、新たに和田の松原を原点として碁盤目状の京を計画した。

►神戸では九条分の平地が取れず、五条程で西の右京は山に、左京は海に入ったと[玉葉]等が記している。結局、当初の地から西方に福原京(和田京)を建設しようとしたのである。

►京は六月九日着工、八月十日棟上げ、十一月十三日に完成の予定で工事が進められたが、同時期に源頼朝や義仲が東国で蜂起したため、清盛は十一月に平安京への還都を余儀なくされたわけである。

### 【13-2】大輪田の津から兵庫の津へ

►ところで、兵庫の地名だが、七世紀の大化改新時の武器庫(兵庫)説や同じころの武庫の地名の武が兵に誤記されたとする説がある。

►地名としての兵庫の初見が十二世紀初頭であるから、上記二説は時間的に隔たりすぎて不自然である。長治二年(1105)「兵庫庄」、応保二年(1162)「兵庫上庄」、寿永三年(1184)「兵庫三箇庄」というのが最古の「兵庫」地名の記録だから、十二世紀初めに庄(荘)園名として現れ、数十年の間に開発が進んで三区画[上庄(かみのしょう)・中庄(かみのしょう)・下庄(かみのしょう)]へと発展したものと考えられる。

►兵庫というのは武器庫のことだから、平家の福原荘の西部にあった武器庫付近が開拓されて農地となり、平家の荘園として発展したものであろう。

►一ノ谷の戦いのころには兵庫は地名として認知され、鎌倉時代以降は従前の大輪田泊(おおわだのとまり)も兵庫の津(ひょうごのつ)と呼ばれるようになる。

►この港は室町時代には勘合貿易でも栄えた。応仁の乱の巻き添えで百年程衰亡するが、戦国末期には復活した。

►信長軍の攻撃や文禄五年(1596)の地震等の災いを乗り越えて、江戸時代には瀬戸内海航路東端の要港として栄えた。その結果、1858年の修好通商条約では開港場の一つに挙げられ、明治維新に際して、1868年に新政府が摂津・播磨の旧天領支配のための兵庫県庁をこの地に置いたわけである。



## 【14】清盛邸跡(雪見御所)と経ヶ島

### 【14-1】有馬街道沿いに平氏の荘園

►JR神戸駅西側・多聞通りと交差し有馬街道が北進する。楠町六丁目交差点へ平野南方の有馬街道沿いに平氏の福原の荘・居館があったと伝えられてきた。

►十二世紀半ばの保元の乱・平治の乱を通じ権力を握った平清盛は、武家として初めて太政大臣になり、平氏一門で高官を独占し五百カ所もの荘園を持ったという。

►そのうちで清盛が特に好んだ荘園が福原で、そこに彼の「雪見御所」や一門の人々の山荘があったことを[平家物語]は記している。神戸では昔から湊川の起点北方を雪の御所と呼んで、清盛邸跡と伝えてきた。明治期・湊山小学校建設時にも、そこから平安時代の瓦が出土した。

►楠町一帯では神戸大学病院の病舎や地下鉄等の建設時に、瓦や堀や庭園跡が発掘されて、福原の荘の館の姿が明らかになっている。

►治承四年(1180)に清盛は、この福原に遷都した。[平家物語]では六月二日に京都を出て翌日ここに着き、清盛の娘婿の高倉上皇は清盛の雪見御所に、清盛の孫の安徳天皇は平頼盛の館に入られたという。頼盛の邸は今の荒田八幡神社の地にあったと伝えられている。この後、清盛は和田岬の西方、長田地方を中心に十一月完成をめどに、碁盤目状の首都つまり和田の京の建設を進める。

### 【14-2】大輪田泊に人工島「経ヶ島」修築して日宋貿易本格化準備

►福原の荘の南には、奈良時代から湊川の川口を利用した船泊まり、大輪田泊があった。この港は和田岬によって南西の風波から守られていたが、東南方向からの波や風に船人は難没していた。

►宋の国との交易を考えた清盛は、大輪田泊の南東沖合いに人工島「島」を建設して、防波堤にしようと考へた。この難工事のために松王丸という少年が、生きたまま人柱として海に沈められたと神戸では伝説し、[平家物語]では応保元年(1161)から始められた工事の中で、人柱は議論されたが沈めなかつたと記している。島は一切経の文句を書いた石を沈めて基礎として建設したため、「経が島」とも呼ばれた。



## 【15】行基による大輪田泊護岸工事と神戸周辺の足跡

▶奈良時代の高僧・行基(ぎょうき)は、仏教の布教とともに社会事業にも力を注いだ人物であり、その活動の一環として行ったのが、大輪田泊(おおわだのとまり)の護岸工事です。

▶行基はこの地に港を築き、波浪から船を守るために護岸工事を行いました。当時の日本では、港湾整備の技術はまだ発展途上であり、自然の入江や浅瀬を利用するものが一般的でした。

▶行基は渡来系技術者の知識を取り入れ、石椋(いしくら)と呼ばれる石積みの堤防を築くことで、港の安全性を高めました。この石椋は、波の力を分散させて船の着岸を容易にし、また高潮や風浪による被害を防ぐ役割を果たしました。



石椋(いしくら)

▶行基の工事は、単なる土木技術の導入にとどまらず、地域の人々の生活を安定させ、物流の発展を促すものでした。

▶大輪田泊はその後も重要な港として利用され、平安時代には空海(弘法大師)が遣唐使船の出発地として整備を加え、さらに平清盛が日宋貿易の拠点として大規模な改修を行いました。

▶こうした後世の発展の基盤には、行基による初期の護岸工事があったことは間違いません。

▶行基の活動は、宗教者が社会インフラの整備に関与した先駆的な例として注目されます。彼は仏教の教えを広めるだけでなく、橋や道路、ため池の建設等、公共事業を通じて民衆の生活向上に寄与しました。大輪田泊の護岸工事はその象徴的な事例であり、日本の港湾史においても重要な位置を占めています。

### 【15-1】神戸周辺における行基の社会貢献の足跡

▶大輪田泊の周辺の整備(天平年間中期・730年代頃)

大輪田泊の周辺に施院(貧民救済施設)や宿泊施設を設置し、航行者や貧民の支援を行う。これにより兵庫津の発展の基礎を築く。

▶和田岬周辺の開発(天平年間後期・740年代頃)

和田岬周辺に灌漑用水路や農地を整備し、農業生産の向上を図る。これにより神戸西部の農村地域の基盤が強化されたとされる。

▶有馬温泉の再興と温泉寺の創建(晩年・740年代後半)

行基は荒廃していた有馬温泉を再興し、温泉寺を建立。湯治を通じて人々の病を癒し、信仰と医療の融合を実現。

## 【16】西国街道を歩く

▶江戸時代の西国街道は、今の元町商店街を西に抜けてJR線と交叉すると、多聞通とJR神戸駅の間を南西に進んだ。駅北のバスターミナルから古湊通と相生町の間の道が街道筋だった。その道筋は、湊八幡神社左角を南西にほぼ直線で続いている。

▶途中、新開地本通りを横切るが、これが明治三十四年(1901)に付け代えられるまでの旧湊川だった。湊川には橋がなかったので江戸時代、街道の旅人は歩いて川を渡っていたが、明治元年秋にここに最初の「湊橋」が架けられた。

▶その先、湊八幡神社があって、その左角に兵庫津の湊口惣門跡の標識がある。京から街道を進んだ旅人はここから兵庫津の港町に入った。湊八幡神社の創建は不詳だが、その立地から兵庫津の北東(うしとうら)つまり鬼門の厄を除けるために祀られた社と考えられる。

▶湊口惣門跡前を直進すると兵庫津の中心ともいべき札場の辻に通じている。幕府・大坂奉行所の指示を掲示する高札は、札場の辻と他に湊口・柳原の惣門(西惣門)わきと来迎寺門前とに立てられていた。

▶北から来た街道は札場の辻で直角に西に曲がって、国道を越えて蛭子神社と福海寺との間を通り、蛭子神社北角にあった柳原惣門(西惣門)で町を出はれていくのである。

▶札場の辻(本町町目1)右北東に進めば湊口惣門から京へ、左北西に進めば柳原惣門から播磨へ。埋まった道標は「右和田(岬)左築(島)」と読める。

▶文化元年(1804)八月十八日に大坂を発って出張で長崎に向かった幕臣の大田南畝は、同日の夕刻に「湊川を徒歩渡りして兵庫の宿に着く…十九日…卯の時すぐ此やどりを出て西柳原町をすぎて左に恵比寿の社あり右に(福海)寺あり、惣門を出て…左右とも田面にして…向ふに高くみゆる山あり。たかとり山といふ」と[革令紀行]に記している。惣門を出て田畠の間を北西に進む道が、神戸高速鉄道開通以前の山陽電鉄のルートである。

▶街道の途中、本町公園の向かいに昭和三年(1928)建設の岡方俱楽部の建物が、神戸大空襲や阪神・淡路大震災に耐えて現存している。年代的に古典的意匠とアールデコ様式の混じった個性的な建築である。

▶兵庫津の町は海に面した北浜・南浜と内陸の岡方の三方に分かれて自治的に治められた。岡方の惣(そう)連合自治会のような組織の会所の跡地に建てられた社交クラブが岡方俱楽部。(1901)に付け代えられるまでの旧湊川だったことは周知のとおりである



## 【17】平清盛の墓域はどこか

▶治承四年(1180)六月、福原に遷都した清盛は和田岬の西方に新しい都(和田京)の建設を進めるが、同年八月には関東で源頼朝が、九月には信州で義仲が兵を挙げた。十月に静岡の富士川で平家軍が頼朝勢に敗れて福原に帰着した十一月、清盛はついに平安京への帰還を余儀なくされた。

▶年が代わると早々から、気苦労からか清盛は熱病に悩まされ、ついに閏二月四日に京で逝去した。

▶[平家物語]によると、清盛の遺体は閏二月七日に愛宕山で荼毘に付され、その遺骨を圓實(えんじつ)という法師が首からぶら下げて摂津の国の経が島に埋葬したという。

▶経が島はかつて清盛が大輪田泊の沖合に建設して防波堤代わりにした人工島で、の中之島から運河の辺りにあった。その近くにあるのが清盛塚と呼ばれ十三重の石塔で、かつてはこれが清盛の墓だと考えられていた。



▶この石塔の基段に「弘安九年二月日」という銘があるので、[摂津名所図会]は「清盛薨せられて後、百余年を歴て、北条・貞時この石塔婆を造立す」と、清盛の墓の上に約百年後に追善供養の塔として十三重のこの塔が建てられたと説明している。

▶この石塔はもとは前の道路のところにあって、大正時代の市電建設時に現在地に移されたのだが、その時に塔の地下が発掘調査された。しかし、遺骨埋蔵の痕跡は認められず、単なる供養塔だということがわかった。清盛の遺骨を埋蔵した墓地はどこなのか、今まで不明である。

▶鎌倉幕府の[東鑑]では清盛の遺骨は、「播磨国山田の法華堂」に納めたという。塩屋から赤穂にいたる播磨にある山田の中では、西舞子の山田は清盛と無縁でない。厳島から福原に帰る途中で明石海峡の悪天を避けるため、この山田の浜に清盛が船を着けたことがあるからである。そこで清盛の墓地を西舞子に求める考え方もある。

▶清盛が福原から月参りをしたという丹生山明要寺も神戸市北区の山田にある。こちらは摂津の国なのだが、関東の[東鑑]の筆者では摂津と播磨の国境を正確には知っていないであろうから、播磨ではなく摂津の山田、つまり神戸市北区に清盛の墓があるとの説もある。[東鑑]の記述は国名も地名にも誤りがあるとして、播磨の山田ではなく摂津の和田だと考えて、元の大輪田泊に戻してしまう考え方もある。

▶兵庫大仏のある能福寺では、前出の圓實は能福寺の住職だから、清盛の遺骨は能福寺境内の法華堂に納められたと説き、かつてはこれが清盛の墓所だと考えられていた。

▶清盛の墓域は今も神戸の歴史の謎なのである。

## 【18】真光寺と一遍上人

▶真光寺(しんこうじ)は、時宗の開祖・一遍上人(いっぺんじょうにん)と深い縁を持つ寺院であり、彼の宗教的思慮と遊行の精神を今に伝える重要な聖地です。特に注目すべきは、真光寺は「一遍上人の終焉の地」として時宗の中でも特別な位置づけを持っています。



### ■ 一遍上人の生涯と思想

▶一遍上人は1239年、伊予国道後(現在の愛媛県松山市)に河野家の子として生まれました。河野家は源平合戦で源義經に味方した名門であり、祖父・通信は壇ノ浦の戦いで平家を滅ぼす一翼を担いました。しかし、承久の乱で後鳥羽上皇側についたために一族は没落し、一遍は動乱の余波の中で育ちました。

▶若くして出家した一遍は、九州の聖達上人のもとで浄土教を学び、12年間にわたり修行を積みました。父の死をきっかけに一度は還俗し、家族とともに生活しましたが、親族間の争いに巻き込まれ命を狙われたことを契機に再び出家。以後は世俗を離れ、念佛の布教に生涯を捧げることになります。

▶教えの核心は、「南無阿弥陀仏」と称えることで、信心の有無や身分に関係なく、全ての人が極楽往生できる絶対他力の思想です。この教えを広めるため、一遍は「念佛札(ふだ)」を配る「賦算(ふさん)」という布教活動を行い、全国を遊行しました。

### ■ 熊野権現の神託と時宗の成立

▶一遍の布教活動において重要な転機となったのが、熊野権現からの神託です。熊野山中で念佛札の受け取りを拒否した律僧(実は熊野権現)との出会いを経て、一遍は「信心の有無にかかわらず、念佛を称えれば往生できる」という啓示を受けました。この神託により、一遍は他力本願の教えを深く理解し、すべての人に念佛札を配ることを決意します。この出来事は、時宗の開宗とされ、宗派としての時宗の精神的基盤が確立された瞬間でもあります。

### ■ 真光寺と一遍上人の終焉

▶一遍上人の遊行は16年間に及び、北は奥州江刺、南は九州鹿児島まで全国を巡りました。そして1289年8月23日、兵庫の観音堂(現在の真光寺)にてその生涯を閉じました。彼は臨終の際、「葬礼の儀式をとのふべからず。野に捨ててけだものに程こすべし」と言い残し、形式的な儀礼を否定する姿勢を貫きました。この言葉は、彼の「捨聖(すてひじり)」としての生き方を象徴するものであり、真光寺はその精神を今に伝える場所となっています。

### ■ 現代の真光寺の意義

▶現在の真光寺は、時宗の教えを継承する寺院として、また一遍上人の足跡をたどる巡礼地として、多くの参拝者を迎えています。



左の鳥居の手前に清盛の墓と伝える一画がある。

▶境内には一遍上人の教えや遊行の様子を描いた[遊行縁起]や[聖繪]等の史料が伝えられ、彼の思想と行動を視覚的に理解することができます。また、念佛札や踊り念佛といった一遍独自の宗教実践も、行事や法要を通じて今なお継承されています。

## 【19】ゴローニン事件(参考)

►ゴローニン事件は、19世紀初頭の日露間の誤解と不信が生んだ外交危機であり、商人・高田屋嘉兵衛の活躍によって平和的解決へ導かれた歴史的事件です。

►背景には「文化露寇」と呼ばれる1806～1807年のロシア武装船による樺太・択捉島襲撃がありました。これはロシア使節レザノフが幕府に通商を拒否され、独断で命じたもので、ロシア政府の正式な指示ではありませんでした。



►しかし日本側は事情を知らず「ロシアは危険な侵略者」と警戒し、ロシア側も「日本は交渉に応じない頑固な国」と不信感を募らせ、両国の誤解が深まりました。

►1811年、ロシア海軍ディアナ号艦長ゴローニンは測量任務で千島列島に向かい、国後島で補給のため上陸しますが、日本側は警戒心から彼を捕縛。

►ゴローニンと航海士ムーアらは武器を持たず抵抗できずに拘束され、函館や松前で2年2か月の幽閉生活を送ることになります。幽閉中、ゴローニンは日本語を学び、通訳馬場佐十郎や探検家間宮林蔵らと交流し、誠実な人柄で日本側の好意を得ますが、幕府はロシアへの不信から釈放に応じず、外交は行き詰まり戦争の危機も漂いました。

►この状況を開いたのが高田屋嘉兵衛です。淡路島出身の嘉兵衛は蝦夷地と本州を結ぶ航路を開き、海運業で成功した「海の王者」と呼ばれる人物。1812年、函館から江戸へ向かう途中、リコルド率いるディアナ号に拿捕されます。

►リコルドはゴローニン救出のため日本人を人質に交換を図ろうとしますが、嘉兵衛は部下を逃がし自ら責任を負い、堂々たる態度でリコルドの信頼を得ます。

►ディアナ号で筆談や身振りで意思疎通を図り、ロシア人の友好姿勢に驚いた嘉兵衛は「自分を日本に返せばゴローニン釈放を幕府に働きかける」と提案し、商人が国際問題解決に挑む前代未聞の展開となります。

►帰国後、嘉兵衛は松前奉行に厳しい取り調べを受けますが、冷静に「ロシアは必ずしも侵略を望んでいない。戦争を避けるためにもゴローニンを釈放すべき」と説得。

►文化露寇がレザノフの独断だったことやロシア皇帝の友好意思を伝え、奉行の考えを変えていきます。1813年春から夏にかけて国後島沖で交渉が繰り返され、嘉兵衛は身振り・筆談・ロシア語を駆使して両国の橋渡し役を果たし、同年9月にゴローニンは釈放され、戦争寸前だった日露関係は一人の商人の誠意によって救われました。

►この事件は日本人の世界観を大きく変えました。ゴローニンは幽閉中に世界地理や西洋科学技術を語り、著書『日本幽囚記』はヨーロッパに日本を紹介。一方、日本側も交流を記録し蘭学者が新知識を得る機会となりました。

►嘉兵衛の活躍は身分制度が厳しい江戸社会に衝撃を与え、幕府も海防強化や西洋技術導入を検討し、幕末の開国への下地が築かれました。

## 【20】勝海舟と龍馬の足跡

►坂本龍馬が初めて土佐から江戸に出た嘉永六年(1853)に、ペリー率いる黒船が来日した。翌年、日米和親条約が結ばれた直後に彼は郷里に戻った。再び江戸に出て修行を終えて帰郷した安政五年(1858)に、井伊直弼が大老となり強引に通商条約を結んだ。

►龍馬は江戸で体験した黒船と、郷里の同僚の攘夷熱の間で苦悩したことだろう。万延元年(1860)条約批准のために勝海舟らがアメリカに派遣されている間に、攘夷派は桜田門外で大老を暗殺してしまった。龍馬が初めて勝海舟に会ったのはさらにその二年後、刺客として訪ねた勝の見識に信服して、逆に龍馬は海舟に弟子入りしたという。

►当時、海舟は開国後の国防のために江戸湾や大阪湾の砲台建設を進めていた。高弟佐藤興之助の指導のもと幕府は天保山・今津・西宮・湊川尻・和田岬に、紀伊徳川家は友ヶ島、阿波藩は淡路の由良と松帆、明石藩は舞子に砲台を建設している。



海軍操練所跡

►文久三年(1863)将軍家茂が大阪湾を視察。四月二十三日に天保山から乗船して和田岬を訪ねた後、神戸村の浜に上陸した時、随行していた勝は海軍創設の必要と、この地に士官養成機関の開設を進言。家茂は即断して、神戸に海軍操練所が建設されることになる。その敷地は市立博物館の南方、京橋から旧生田川(現、フランワーロード)川口西方までの海岸部一万坪余りだった。

►また、勝海舟は交通センタービルの西辺りに屋敷を構え、邸内に私塾・海軍塾を開いて九十名程の若者を指導した。坂本龍馬はこの塾の塾頭だったという。



勝海舟の寓居跡:平野にあった、生島四郎太夫の実家のあと。

►海舟の神戸での活動を支援したのが神戸村の庄屋生島四郎太夫で、工事中の神戸を何度も視察した後、初めて神戸村の生島家に宿泊、後に四郎太夫の実家である平野村の乾邸に移って工事の進捗を待っている。

►翌元治元年(1864)五月に勝は軍艦奉行となり、操練所は開校した。

►しかし、操練所修業生の中には血氣にはやって京都の争乱に加わる者や素行の悪い若者もあったため、勝を批判する勢力は、幕末の混乱の中、元治二年の三月に神戸海軍操練所を廃止してしまった。操練所は短命だったが、後に兵庫県知事や外務大臣を務めた陸奥宗光、海軍大将となった伊東祐亨などは若い日にここで学んだ人たちである。

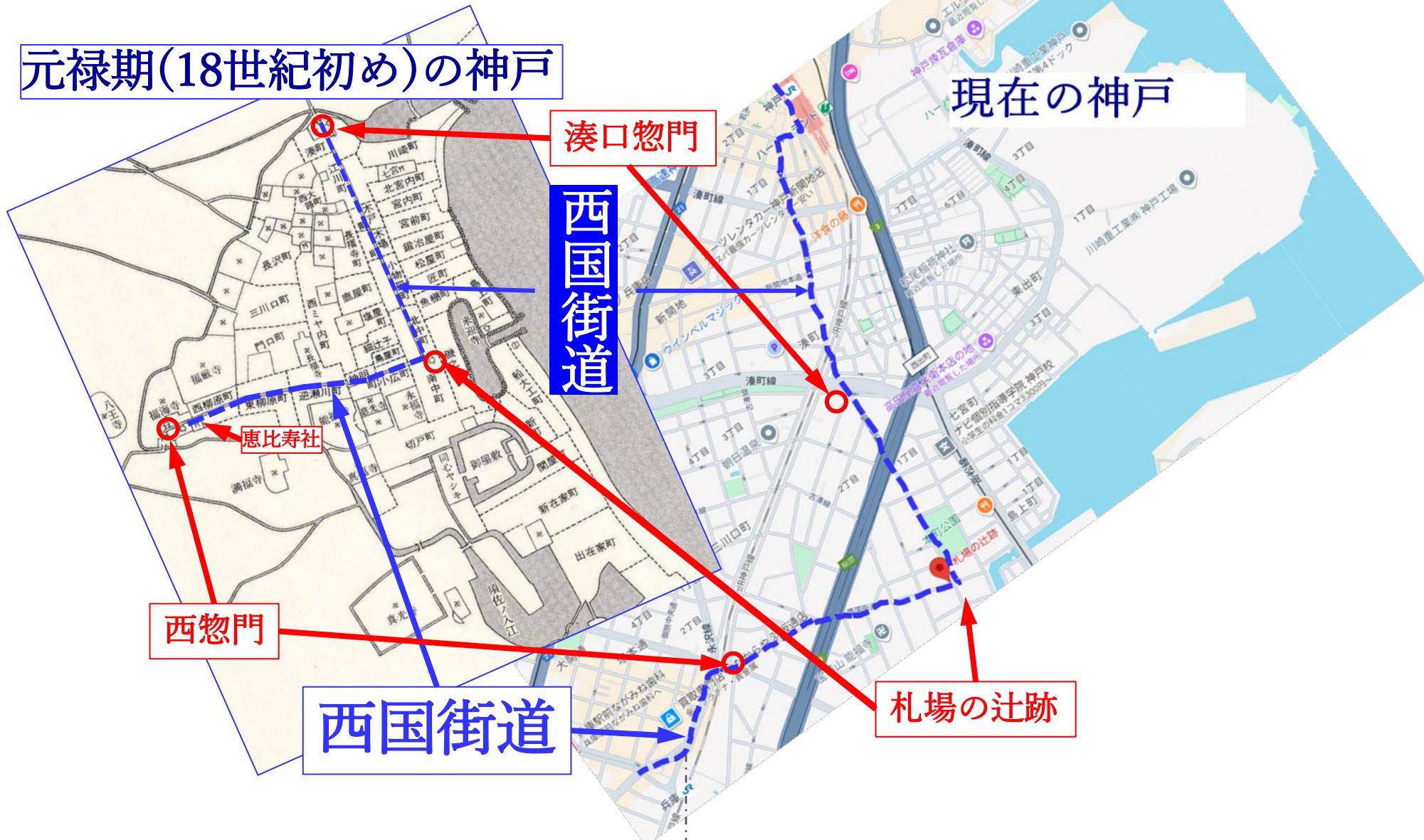


勝海舟に協力した生島四郎が出身地平野の祇園神社に寄進した灯籠

►操練所の建物は明治当初、英國領事館として利用された後、湊山(みとやま)小学校の前身となる湊山小学校(そうざん)の建物に転用された。諏訪山の金星台には勝が操練所に建てようとしていた「海軍官」の碑もある。

片側のみ綴じ込み

## 【21】西国街道今・昔(江戸元禄)



## 【22】西国街道今・昔(明治)

片側のみ綴じ込み

1885年の神戸

JR神戸駅

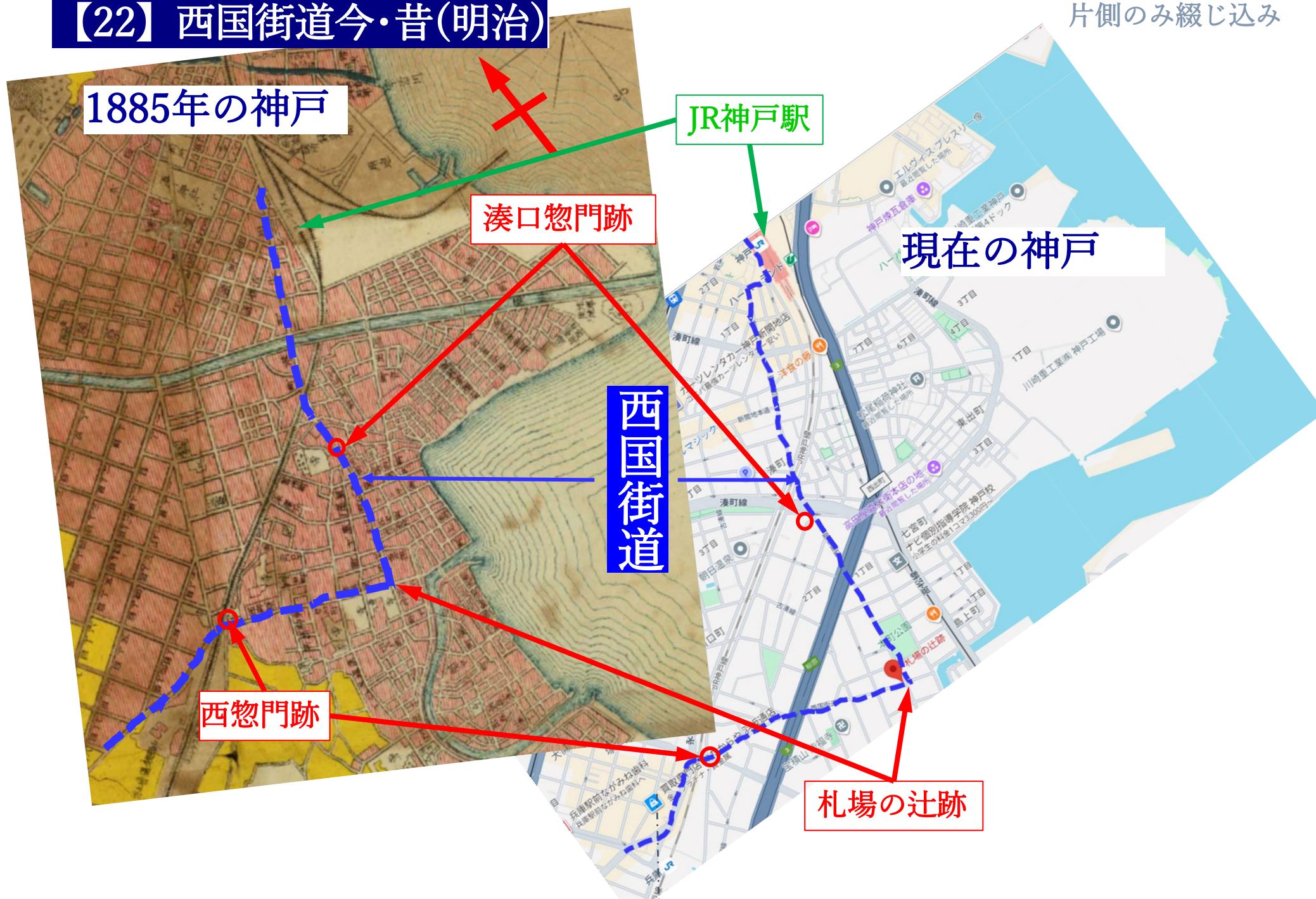
湊口惣門跡

西国街道

西惣門跡

札場の辻跡

現在の神戸



## 【23】オプショナル(ハーバー)コース

※約2時間(ウォーク:1.9km)14:55~16:47

▼14:55・ハーバーランド駅(地下鉄海岸線)  
↓(5分)

▼15:10・神戸駅南口・(10分待ち・お手洗いなど)  
↓(10分)※神姫バス・ポートループバス(¥230)

▼15:20・神戸ポートタワー・30分  
(最上階にて神戸港・瀬戸内海展望:入場券¥1,000&事前予約要)

↓(6分)

▼15:56・神戸海援隊・1分  
↓(16分)

▼16:13・旧海軍操練所跡/遺構(5分)  
↓(2分)

▼16:25・新港町バス停(5分待ち)  
↓(8分)※神姫バス・ポートループバス(¥230)

■16:47・三宮センター街東口(二次解散/有志懇親会へ)



## 【24】JR神戸駅/市営地下鉄ハーバーランド駅・構内図



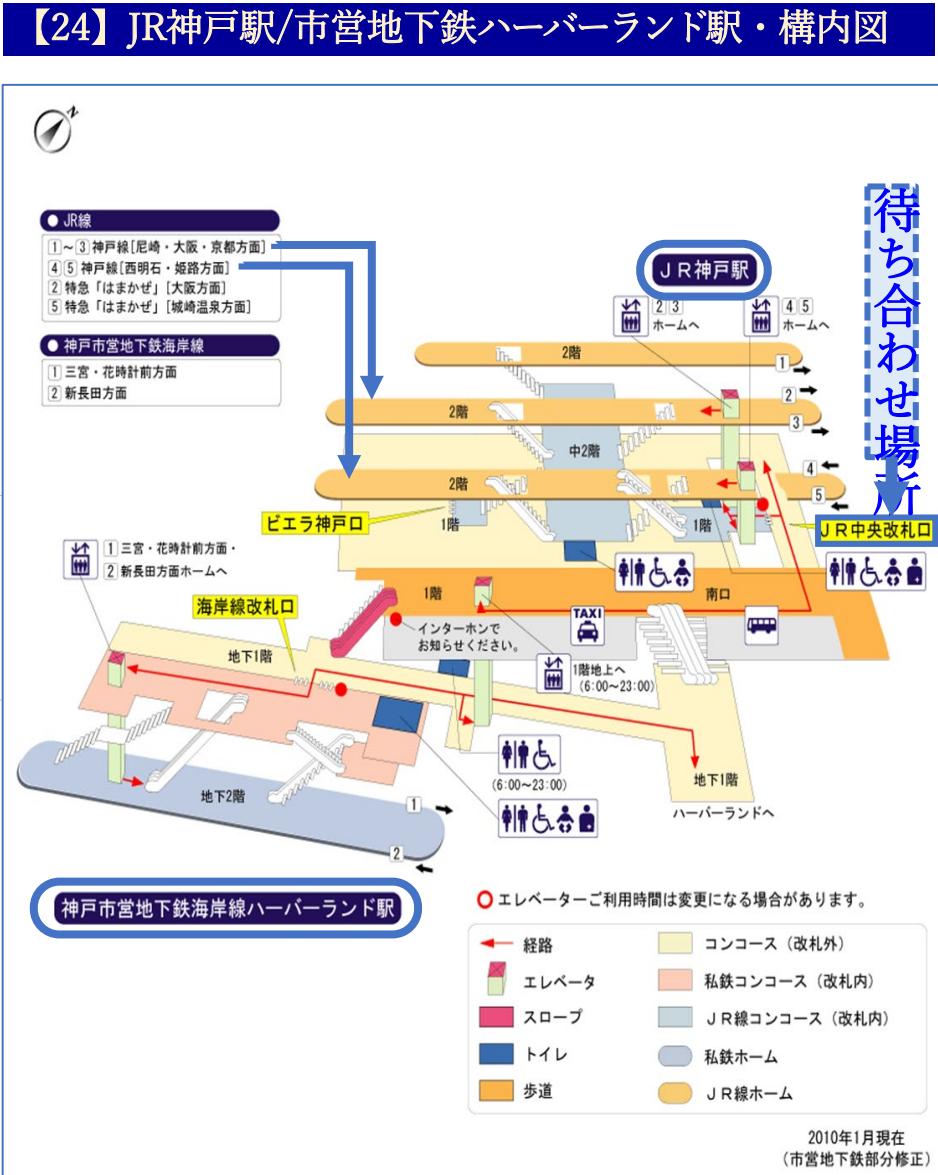
### JR線

- ①~③ 神戸線[尼崎・大阪・京都方面]
- ④ ⑤ 神戸線[西明石・姫路方面]
- 2 特急「はまかぜ」[大阪方面]
- 5 特急「はまかぜ」[城崎温泉方面]

### 神戸市営地下鉄海岸線

- ① 三宮・花時計前面
- ② 新長田方面

折り曲げ線



## 【25】当日の運営側の対応事項（役員敬称略）

- 1)担当世話役 藤本はJR神戸改札口に9:45に到着予定です。
- 2)改札口での出迎え・集合場所への誘導；◇10：00から土居・藤本で開始  
◇他のレク担当も到着次第誘導対応  
◇お手洗いを済ませて頂くの要請
- 2)集合場所（屋外）：神戸駅舎山側・工事柵前
- 3)スタート前行事
- ①会費徴収(会計:村上) ; 10:00スタート
- ②会費は名札(シール式)と交換 ; 役員は黄色の○マーク付与
- ③挨拶 ; ◇藤原会長挨拶 10:30スタート  
◇ガイド(村山・西島)さん紹介  
◇遠方参加者四国中央市・今村さん紹介
- ④諸連絡（藤本）  
◇役員の識別・当日のお世話(レク担当)の紹介  
(体調不良含めお困り時、気兼ねなく近くの役員にお知らせ頂くべく要請)  
◇散策ルートは、日常的な市街通行路にて、各自での安全注意の要請  
◇昼食について、市場側に加えイオン内にフードコート有る旨伝達  
◇県立ミュージアム入館料について  
\*会費から拠出(70歳以上割引有)  
\*入館時・年齢証明となるもの提示要請するむね伝達  
◇午前中に離脱する方の有無確認(有った場合、昼食前に集合写真実施)  
◇オプショナルコースの方の確認  
◇解散後の懇親会参加者の確認
- 4)スタートとその後の順路；神戸駅舎紹介頂いて、線路の山側沿いに移動
- 5)午後からガイドさん1名の交代：村山さん→谷口さん
- 6)集合写真撮影；県立ミュージアム初代県庁でのコーヒーブレーク前に
- 7)ガイド(西島)さんへの謝礼(昼食代として)そっとお渡し:記念撮影後、会計より
- 8)解散前行事（地下鉄ハーバーランド改札口前・1出口エスカレータ手前）  
①オプショナルコース選択の方、懇親会参加者再確認  
②副会長(藤本)・解散の挨拶

